

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201971		
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		
事業所名	グループホーム おきつの家 Bユニット		
所在地	静岡市清水区興津中町 1134-1		
自己評価作成日	令和2年10月3日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2294201971-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナ対策により外出や家族等外部からの面会も制限されているため、限られた空間の中で生かすに利用者の気持ちを大事にして出来る限りの対応、対応行っています。提携クリニックの主治医との信頼関係を築き、十分な話し合いの上、安心安全の確保の24時間緊急往診体制を構築しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新管理者着任後、新しく入居した利用者は5名おり、コロナ禍で見学できないためスマホで共用空間の様子を見てもらい、職員の対応や設備を説明しています。それとともに、入居後も「昨日はよく寝れました」と、電話をこまめにすることで関係継続を図っています。暴力、暴言のある利用者もいて対応に苦心する面はあるものの、職員はできることを一つひとつ明らかにしておこなっていて、夜勤帯では翌日のおやつにとみかんゼリーをつくらせたり、所内だけで実施した夏まつりにははとろてんやかき氷の提供に2ユニットでの助け合いもみられ、今後の展開が楽しみな予兆が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に基づいた意義の意識が低く、新たに共有実践につながるよう再構築を試みています。	新管理者が着任する前後に職員の入れ替わりもあったため、事業所理念は新メンバーで再構築する予定です。オンラインで法人アナウンスが流れる「月初会」では、「唱和しましょう」との声がけに合せて法人理念を読み上げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住民との関係は良好で以前よりボランティアの交流があります、コロナの関係で施設の面会外出制限あり一時的に閉鎖的になっています。	コロナ禍前には地域交流室でボランティアの催しものがありましたが、今は中止しています。職員も地元の人が多く、また入居の利用者と元々知り合いということから夏は地域からスイカが届くなど、難儀な中励みとなる応援を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同施設内の小規模多機能と連携し地域包括や居宅等に情報発信で地域貢献に生かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住人や家族からの様々な意見を現場で生かせるようにしています。	運営推進会議は町内会長をはじめ、地域包括支援センター、家族や近隣住民の出席も得られていましたが、コロナで変則的な運営となっています。1月～7月は中止としており、活動記録もまとめられてはいませんが、地域住民とはコンタクトをとっています。	コロナ禍とはいえ、実働がないままとならないよう、数名での所内開催(2ヶ月の活動内容のまとめ)→メンバーへ発送→意見授受→議事録作成と、通常に近い段取りを踏むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や市生活支援課、権利擁護等密に連絡をとり協力関係を築いています。	管理者交替についてはまだ行政窓口へ挨拶に行けていませんが、地域包括支援センターには法人本部の上長とともに挨拶に出向くよう予定されています。また生活保護受給者4名の内1名には権利擁護が入っていて、毎月訪問を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修にスタッフが積極的に参加し日頃からのケアのあり方の理解に努めています。	「身体的拘束適正化検討委員会」は、3ヶ月に1回の開催でよいところを運営推進会議内で2ヶ月に1度実施してきましたが、3月、5月、7月、9月の運営推進会議を中止したことから職員会議の後に組込んでおり、毎月の開催に至っていません。	身体拘束廃止未実施減算に係る書面は、あらためて精査、整えていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時に法人研修としても実施し、十分な理解をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状生活保護入居者がいる為、権利擁護が関わり関係性を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、需要事項説明書に基づき、十分理解して頂けるよう丁寧な説明を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り状況を家族に伝え、来所持や運営推進会議等で意見要望が伝わるよう努めています。	管理者交替にあたり、利用者家族には挨拶文を発信していますが、他県に在住する家族とは電話での面識しかなく、直に会えているは8名ほどです。家族も「コロナが終息したら会いに行きたい」と言ってくださっており、管理者としては関係構築はそこからと考えています。	検温、マスク、玄関先、10分以内等と整備して(少し緩和したときは相談室でおこなったこともある)面会はできていますが、写真や1ヶ月の様子が手に取るように判る便りを発行することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問を解決出来るように毎月の職員会議において意見交換、管理者による面談等定期的に実施しています。	法人が「毎月1度は個人面談をおこなうように」と求めています。なかなか時間がとれないものの、この半年に各人2回程実施しています。職員数に難があり管理者の夜勤も多いため、コミュニケーションはとれていて意見は耳に入り易く、法人につないだ案件もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議を通して法人からの伝達事項で職場環境の改善整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナでの制限の中、法人として職員のスキルアップを図るため、オンライン研修を始められています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者会議等で意見交換の機会があり情報共有として職員に伝え共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントをもとに職員間で話し合いを持ち情報を共有し統一した対応が出来るよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご家族の要望や悩みを聞き、出来るだけの対応をさせて頂き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの方がニーズを解決出来ると判断の場合他利用対応も視野に入れていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でその方の出来る事に無理強いないで協力して頂く関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状コロナ制限で、ご家族が来所出来ない為、こまめに状況を伝え、ご理解の上関係性をきずいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状コロナ制限で外出、面会制限があるが、馴染みの関係性が途切れない様に一部工夫に努め維持をしています。	大正琴をやっていたという人には職員の持ち物を貸して様子をみましたがすでに興味がなく、書道の達人も同じ結果です。塗り絵や脳トレを此処から趣味とし始めた人はいます。「朝は牛乳」「カーテンは私が開ける」声に応え、テレビのチャンネル権を握って離さない人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の生活ペース、性格を考え席の配置など職員間で常に話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅ケアマネや病院相談員等必要に応じて連絡を取り合い契約終了利用者にも相談支援につとめています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いを把握し希望に沿った暮らしを検討しています。	職員は、入浴介護や塗り絵の場面で発語を引き出し、ケアに反映させています。入居にあたっては居宅のフェイスシートを複写して職員に配付しています。職員の頭の中には利用者の特徴はあり、特記事項に関しては申し送りもできていますが、記録など書面化は希薄です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、ご家族からの細かな聞き取りで入居前の環境把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット事の職員間で情報共有を綿密に行い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成者と介護職、看護師とで連携を図り、それぞれの意見が反映された介護計画を作成しています。	現在の介護計画書の作成については、「短期目標1年」「長期目標3年」「入居時に仮プランをつくらない」等、不備が見受けられます。また段取り全体においても形骸化している点もあり、新しい介護支援専門員の下、是正してゆくとしています。	介護計画は本事業の中核を成すものです。早期の是正を祈念します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送り等で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設では小規模多機能の併設があり、状況により連携、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会より地域の情報を収集し敬老会などに利用者様も参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との信頼関係での訪問診療支援はもとより、それぞれのかかりつけ医の受診も遮断しないように対応しています。	現在15名のうち1名が従来のかかりつけ医に家族の付き添いで通っていますが、来月以降は全員が協力医となる予定です。月2回の訪問診療をおこなう2つの医院のどちらかを家族に選んでもらっており、選択にあたっては「便秘症の改良が得意」等管理者が助言しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師と連携、情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネを含め医療機関と情報交換し、適切な関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	9月終末期の利用者様も早い段階よりご家族、主治医と話し合い、方針共有して慌てる事のない支援、お看取り出来ました。	協力医については書面上24時間対応となっはいるも、実際はそうではないことから契約内容を院側のケースワーカーとも協議のうえ、新管理者となってから整備しています。コロナ禍での看取りでは柔軟対応とし、居室で家族が本人と会話をもてた後、旅立つことができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に小規模多機能合同で避難訓練の実施、申し送り、研修等により知識、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練の実施他、管理者、職員が地域の防災訓練に参加、地域との協力体制を築く為、備蓄食料、ヘルメット、防災頭巾の備蓄設置をしています。	階下の併設事業所職員が防火管理者です。8月に短縮で実施、疑似消火をおこなっています。新管理者着任後、非常食が3日分あることを確認のうえ、水とともにヘルメットと防災頭巾も追加購入しています。今回はAEDをおこないたいとしています。	8月の折、シフトの調整まではできていません。次回は体験しているか否かを含み、「わかる」「できる」も詳らかにして、全職員の標準化を進めることを期待しています。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には丁寧な言葉かけを心掛け、個人を尊重した対応をしています。	経過記録を書く場所も確保され、中からフロアを見渡せる構造で、職員のカンファレンスが自然に始まりがちな環境にあるため、「利用者のことを他の利用者の前で言わない」ことは繰り返し職員に言ってきかせています。排泄では便や尿を数字で表記する職員もいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己意思の決定が出来るような声掛け支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちを尊重し希望に沿った生活支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の身だしなみ支援が出来るよう、声掛けや居室環境整備支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや、禁食代替え対応や家事支援対応で楽しみを増やしています。	食材と作り方が業者から届いて職員が作る形式でしたが、来月から朝と夕食が湯煎、昼がお弁当の搬入となる予定です。ホットプレートを駆使したり、夜勤中にみかんゼリーをつくることで「楽しみ」を提供しており、食器洗いを日課とする利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供業者からのメニュー表はカロリー計算表示がされ、水分量は表でチェックして支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず職員が声掛けして口腔ケアを行い清潔保持の支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便のペースや量を把握し必要な方に声掛け、誘導を行っている。	独歩でトイレに向かえるのは15名中3名と僅かです。車いすの利用も増え、全盲で手引きが必要な人もおり、また職員との距離が全くなく「大がでた」と教えてくれる人、隠し通そうとする人など様々ですが、排泄チェック表をつけ、利用者のリズムを把握しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分補給(牛乳、ヨーグルト等)を提供して予防、改善に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向、希望を踏まえ、入浴日程表作成、状態に合わせて臨機応変に対応しています。	「隙間から見守るのもイヤ」という人、「同性介助でもイヤ(自分でやりたい)」という人、「入りたくない」拒否と、入浴前は恒例のやりとりが見られ、また洗身では洗ったことを忘れて何度も洗おうとして1時間余浴室に滞留する人もいますが、気分を害さないよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごせるよう、状況に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表や薬状シートを作成、場合により、かかりつけ薬局と連携、内容の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとの支援や家事による役割で張り合いが出来るよう個々の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの制限以前は散歩や買い物等、普段から外に出掛ける機会を設けています。	併設事業所の車輛を借りることもでき、これまでは楽市楽座やマス釣りに出かけていましたが、現在はユニット内の散歩と敷地内での外気浴に留まっています。また、帰宅願望の強い利用者には息子さんに状況説明をして、電話で話す機会を増やしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、買い物自由になるよう個々に対応支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とやり取りが出来るよう手段に応じて支援を心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は場合により家具配置を変え、過ごしやすい空間作りを意識しています。	掃除機の後モップ、手すりトイレを通常の清掃としており、コロナ禍後は次亜塩素酸水の消毒を増やし、浴槽も消毒するようになっています。開けると怒る利用者があるため、躊躇していた換気にも現在は積極的に取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用して自由に会話やくつろげる居場所をくふうしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるよう家具等の位置設定を工夫しています。	個性が際立つもの、目を惹くものはなく、主にはテレビや筆筒の持ち込みが見られます。転倒しやすくなったことから、つたい歩きができるよう位置をかえた例や、畳生活だったことから布団を敷くようにしていたところ、転倒を経てベッドを入れるようになった居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間、施設内が安全安心であるような環境作りに工夫を試みしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201971		
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		
事業所名	グループホーム おきつの家 Cユニット		
所在地	静岡市清水区興津中町 1134-1		
自己評価作成日	令和2年10月3日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2294201971-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要 (or.)

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナ対策により外出や家族等外部からの面会も制限されているため、限られた空間の中で生きずまらない様に利用者個々の気持ちを大事にして出来る限りの対応、対応行っています。提携クリニックの主治医との信頼関係を築き、十分な話し合いの上、安心安全の確保の24時間緊急待診体制を構築しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新管理者着任後、新しく入居した利用者は5名おり、コロナ禍で見学できないためスマホで共用空間の様子を見てもらい、職員の対応や設備を説明しています。それとともに、入居後も「昨日はよく寝れました」と、電話をこまめにすることで関係継続を図っています。暴力、暴言のある利用者もいて対応に苦心する面はあるものの、職員はできることを一つひとつ明らかにしておこなっていて、夜勤帯では翌日のおやつにとみかんゼリーをつくらしたり、所内だけで実施した夏まつりにははとろてんやかき氷の提供に2ユニットでの助け合いもみられ、今後の展開が楽しみな予兆が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に基づいた意義の意識が低く、新たに共有実践につながるよう再構築を試みています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との関係は良好で以前よりボランティアの交流があります、コロナの関係で施設の面会外出制限あり一時的に閉鎖的になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同施設内の小規模多機能と連携し地域包括や居宅等に情報発信で地域貢献に生かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住人や家族からの様々な意見を現場で生かせるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や市生活支援課、権利擁護等密に連絡をとり協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修にスタッフが積極的に参加し日頃からのケアのあり方の理解に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時に法人研修としても実施し、十分な理解をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状生活保護入居者がいる為、権利擁護が関わり関係性を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、需要事項説明書に基づき、十分理解して頂けるよう丁寧な説明を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り状況を家族に伝え、来所持や運営推進会議等で意見要望が伝わるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問を解決出来るように毎月の職員会議において意見交換、管理者による面談等定期的に実施しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議を通して法人からの伝達事項で職場環境の改善整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナでの制限の中、法人として職員のスキルアップを図るため、オンライン研修を始められています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者会議等で意見交換の機会があり情報共有として職員に伝え共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントをもとに職員間で話し合いを持ち情報を共有し統一した対応が出来るよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご家族の要望や悩みを聞き、出来るだけの対応をさせて頂き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの方がニーズを解決出来ると判断の場合他利用対応も視野に入れていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でその方の出来る事に無理強いないで協力して頂く関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状コロナ制限で、ご家族が来所出来ない為、こまめに状況を伝え、ご理解の上関係性をきずいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状コロナ制限で外出、面会制限があるが、馴染みの関係性が途切れない様に一部工夫に努め維持をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の生活ペース、性格を考え席の配置など職員間で常に話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅ケアマネや病院相談員等必要に応じて連絡を取り合い契約終了利用者にも相談支援につとめています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いを把握し希望に沿った暮らしを検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、ご家族からの細かな聞き取りで入居前の環境把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット事の職員間で情報共有を綿密に行い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成者と介護職、看護師とで連携を図り、それぞれの意見が反映された介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送り等で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設では小規模多機能の併設があり、状況により連携、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会より地域の情報を収集し敬老会などに利用者様も参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との信頼関係での訪問診療支援はもとより、それぞれのかかりつけ医の受診も遮断しないように対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師と連携、情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネを含め医療機関と情報交換し、適切な関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	9月終末期の利用者様も早い段階よりご家族、主治医と話し合い、方針共有して慌てる事のない支援、お看取り出来ました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に小規模多機能合同で避難訓練の実施、申し送り、研修等により知識、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練の実施他、管理者、職員が地域の防災訓練に参加、地域との協力体制を築く為、備蓄食料、ヘルメット、防災頭巾の備蓄設置をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には丁寧な言葉かけを心掛け、個人を尊重した対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己意思の決定が出来るような声掛け支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちを尊重し希望に沿った生活支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の身だしなみ支援が出来るよう、声掛けや居室環境整備支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや、禁食代替え対応や家事支援対応で楽しみを増やしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供者からのメニュー表はカロリー計算表示がされ、水分量は表でチェックして支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず職員が声掛けして口腔ケアを行い清潔保持の支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便のペースや量を把握し必要な方に声掛け、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分補給(牛乳、ヨーグルト等)を提供して予防、改善に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向、希望を踏まえ、入浴日程表作成、状態に合わせ臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごせるよう、状況に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表や薬状シートを作成、場合により、かかりつけ薬局と連携、内容の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとの支援や家事による役割で張り合いが出来るよう個々の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの制限以前は散歩や買い物等、普段から外に出掛ける機会を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、買い物自由になるよう個々に対応支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とやり取りが出来るよう手段に応じて支援を心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は場合により家具配置を変え、過ごしやすい空間作りを意識しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用して自由に会話やくつろげる居場所をくふうしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるよう家具等の位置設定を工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間、施設内が安全安心であるような環境作りに工夫を試みしています。		